

1862
2008
3/15

府職の友

発行所/大阪府関係職員労働組合
〒540-0008 大阪市中央区大手前2-1-59
電話 06(6941)0351・内線3740
直通06(6941)3079 FAX06(6941)4541
Eメール info@fusyokuro.gr.jp
URL http://www.fusyokuro.gr.jp
発行人/平井賢治 編集人/西村浩美
(1部10円)組合員の講読料は組合費に含まれています。

第44回府職労スポーツ祭典
ソフトボール大会
●とき 2008年5月10日(土)
●場所 職員グラウンド(舞洲)



2008年3月11日
府の財政と真の再建方策とは?

「なぜ財政赤字が生まれたのかを明らかにし、そこを改革しなければならない」

府財政問題学習会を開催

府職労版「府財政再建方策」づくりへ

府民のつどい 5月24日 開催

3月11日、新別館北館多目的ホールで府財政問題学習会を開催しました。組合員、府民団体など100名を越える参加者がありました。平井委員長が「橋下知事は『財政非常事態宣言』を発し、府の財政再建を至上命令に、府民のくらし・福祉・医療・教育をないがしろにした暫定予算案を組み、今府議会で審議されている。府議会での審議を見守りながら、知事の言っている「赤字、破産、倒産状態」という中身が何なのか、そもそも府の財政はどうなっているのか学び、その再建方策について共に考えていきたい」と学習会の趣旨を訴え、府職労の当面の方針として①職場から行財政点検運動を取り組む②出資法人や公の施設に働く人たちの協力・共同を進める③府民要求と府職員要求を統一的に捉え、5月24日に開催予定の「府民生活こそ危機―赤字財政からの転換を―(仮称)」にむけ、府財政再建方策案の提言を纏める、などの行動提起を行いました。

大阪教育大学の高山新教授から「大阪府財政を考えると、高山教授は、この間の大阪府の改革について、人口10万人当りの職員数が全国平均217人を下回る113人の問題、全国でもっとも厳しい人件費の引き下げがされた問題、その一方で大型プロジェクトが推進されている問題にふれ「なぜ財政赤字が生まれたのか。基本的なことを明らかにし、その部分を改革しない限り、一時しのぎの工作で、厳しい状況だけを府民に押し付ける、あるいは小さな政府、小さな大阪府だけをつくってやっつくいく形になつては府民の生活を守れない」と橋下知事の改革の問題点を指摘しました。

学習会のまとめで、渡部副委員長・行財政部長は「本日の学習会を契機として府職労の『府財政研究会』でも府財政の現状を把握し、税金の使い方をチェック・検討し、府民生活と府職員生活を守る真の財政再建方策案を提言したい。府の団体にも協力・共同を呼びかけていくが、全ての職場から府政に精通している組合員・職員の皆さんの生の声と府民の声を是非提言として府職労にお寄せください」と結びました。

府民のつどいを5月24日(土)午後1時30分からいきいきエイジングセンターで開催します。

10日、府当局から「勤労手当の成り立ち」について提案がされました(3月10日府府職の友号外参照)。今回提案された内容は、「最上位」と「標準」の支給差約10万円を約17万円に、「第二上位」と「標準」の支給差約5万円を

今春闘は「貧困と格差」の拡大の解消をめざす春闘です。「ワーキング・プア(働く貧困層)」は1千万人を超え、生活設計どころか今夜の宿代も払えず、ホームレスとなる人も増えています。また、正社員の4人に1人は健康を損なうほど長時間労働に追いつかず、賃金の引き上げ、長時間労働もなくなり、雇用機会を増やし、不安定雇用の温床である派遣や有期契約を規制する必要があります。

ワーキング・プアも過労死もない社会を!

府職労では、3月12日夕刻JR天王寺駅周辺で働く人々の確立を求める請願署名行動を取り組みました。40名を越える組合員が参加しました。若い方が署名に応じ150筆の署名が集まりました。通勤帰りの方々から「がんばってください」「なんとかしてほしい」と声が寄せられました。



府職労春闘統一行動

今回は、3月29日(土)午前11時から森之宮駅周辺で統一行動を実施しますので、ぜひ参加ください。

一時金の格差をさらに拡大

制度が破綻した賃金リンクの撤回を!

このことから制度が破綻していることは明らかであり、全体の奉仕者である公務員、公務職場に「評価」を持ち込み、競争を煽ることがそもそも間違いであることが明白になりました。府職労は新人事評価制度の抜本的な見直しと賃金リンク撤回を当局に求めています。

野球好きの私は、毎年夏の高校予選を母校の応援に行っています。選抜がもう始まりますが、大阪で、公立が甲子園に出ることは容易ではありません。一昨年高校野球雑誌に公立の雄として、トリビアめいた記事が載っていましたので紹介します。

遊歩道

甲子園出場がない大阪の高校で、夏の府大会での通算勝利数が最も多いのが私の母校・城東工なんです。過去60回参加して通算106勝でランキング15位。上位の高校は全て甲子園出場。60年の歴史こそ強さのゆえんというのですが、無冠のチームがあるからこそ、激戦区・大阪が強豪なのかも。そんな母校も、甲子園に届きそうな時期があった。1952年秋の府大会準優勝で近畿大会進出。選抜候補として挙げられたが涙をのんだ。この他、夏のベスト4、ベスト8が各4回。私のひとつ上の年には、春季大会でPLを破って優勝したことも。高校野球の魅力は、一つ一つのプレーに集中し、どんな点差でもゲームセットまであきらめないことではないでしょうか。私は今年も球場で、自分は「どやねん!」と自問自答し、母校の甲子園出場を夢見んでいます。